

上杉慎吉著作目録

松田 義男 編
改訂 2019年 6月 22日
2011年 7月 10日

目次

1. 著書(共著・訳書含む)
2. 論文等(新聞・雑誌掲載)

凡例

- *「1. 著書(共著・訳書含む)」、「2. 論文等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列した。
- *叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名をく > に示した。
- *単著については、目次構成を【 】に示した。連載評論についても、副題が各回で異なる場合【 】に示した。
- *掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。また、新聞の夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- *雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- *新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- *連載は、初回掲載に一括した。
- *再録書は、初出の注記として[]に記した。
- *編者未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- *その他、編者の注記を適宜[]に記した。

本著作目録作成に際しては、上杉正一郎ほか編『上杉慎吉著作目録』(非売品、1941年)を参照したほか、大阪市立大学学術情報センター、大阪府立中央図書館、岡山県立図書館、岡山大学付属図書館、鹿児島県立図書館、神奈川近代文学館、神奈川県立図書館、京都大学総合図書館・経済学部図書室・農学研究科生物資源経済学専攻司書室、神戸市立中央図書館、神戸大学社会科学系図書館、国立国会図書館、金光図書館、三康図書館、市立米沢図書館、千葉県立中央図書館、天理図書館、東京都立中央図書館、同志社大学今出川図書館・人文科学研究所、成田山仏教図書館、日本近代文学館、北海道大学図書館、宮城県図書館、明治大学図書館、早稲田大学中央図書館より資料閲覧・複写の便宜を得ました。

なお、上記『上杉慎吉著作目録』にある下記著作は、掲載を確認できないため採録を留保した。

警察官憲の明答を求む『国民新聞』1923年 6月 14日
いざと言へば立つ急進愛国党『国民新聞』1924年 2月 4日
師団の減少は慎重の考慮を要す『国民新聞』1924年 7月 11日

また、今野元『吉野作造と上杉慎吉』(名古屋大学出版会、2018年)巻末の「参考文献 III 上杉慎吉著作」を参照し、誤記・脱漏を補訂したが、以下は採録しなかった。

- (1) 桐花会記事 弘く同志を募るの檄『我が国』172、1919年 1月 1日
- (2) 国家は最高の道徳 上杉博士講演『鹿児島朝日新聞』1926年 4月 14日

(1)は「桐花学会の移檄」(『我が国』161、1918年 2月 3日)からの再録で「桐花学会」が発した檄であり個人の著作ではない。

(2)は講演傍聴記事である。講演概要は「上杉博士講演」『鹿児島朝日新聞』4月 15～18日である。

1.著書(共著・訳書含む)

『行政法原論』有斐閣書房、1904年11月18日【1緒論(1行政及ヒ行政法、2公法上ノ人格及ヒ権利)、2行政ノ組織(1行政ノ機関及ヒ其ノ組織、2官庁、3公共団体、4營造物、5行政組織ノ統一)、3行政ノ行動(1行政ノ行動、2行政立法、3行政処分)、4行政裁判(1行政裁判、2権限争議裁判)、5行政各論(1行政各論、2軍務行政、3外務行政、4司法行政、5財務行政、6内務行政)】

『帝国憲法』日本大学、1905年10月17日【緒論 基礎觀念(1国家、2憲法)、1緒論(1大日本帝国ノ国体及政体、2大日本帝国憲法)、2国家ノ組織(1総論、2天皇、3領土、4臣民)、3国家ノ行動(1緒論、2憲法上ノ大権、3立法、4司法、5行政)】

『比較各国憲法論』有斐閣書房、1906年6月14日【序説、1憲法上主要ノ概念(1国家及国家ノ聯結、2統治権、3国家ノ機関及統治権ノ総攬者、4国体、5政体、6憲法、7領土、8臣民)、2憲法ノ系統(1概説、2、英吉利憲法ノ發達、3北亞米利加合衆国各国及合衆国憲法ノ制定、4仏蘭西人権宣言及其以後ノ憲法ノ変革、5白耳義憲法、6独逸諸国特ニ李滯西憲法制定ノ歴史、7独逸帝国憲法ノ制定、8大日本帝国憲法ノ制定)、3比較憲法(1国体、2憲法ノ形体、3臣民ノ権利義務、4君主、5君位継承、6摂政、7共和国ノ元首、8国務大臣、9国会、10国会ノ権限、11国会ノ組織、12国会ノ開会及議事、13立法権、14法律、15命令、16予算、17司法権)】【漢訳：『比較各国憲法論』東亜公司書籍部、1906年12月31日】

『カールスルーエ市の公共施設』内務省地方局、1909年10月

『婦人問題』巖松堂書店、1910年11月1日【緒言、1婦人問題の意味、2婦人問題の経済的由来、3婦人問題の精神的由来、4婚姻の正理、5婚姻に於ける婦人の地位、6正常ならざる状態、7婦人の職業、8婦人の労働、9、婦人の教育、10婦人選挙権】【再版：三書楼、1910年12月30日】

独逸農村の実況『独逸農村の実況[上杉慎吉講演] 欧洲農家の家庭[広瀬次郎講演]』博文館印刷所、[非売品、1911年]<京都大学農学研究科生物資源経済学専攻司書室所蔵>

『国民教育 帝国憲法講義 全』有斐閣書房、1911年12月8日【1国権存在の理由(1国民教育、国権存在の理由、3建国の歴史、4国権の目的)、2国家(1国家主義、2国家、3法律上の国家、4国権又は統治権、5統治権の総攬者、6単一国家と聯邦国家、7国体、8政体と国体)、3天皇(1天皇即国家、2我が国体の精華、3皇位継承、4摂政)、4憲法(1憲法、2帝国憲法の制定、欽定憲法、3憲法と国権、国体及政体、4国法の遵奉)、5臣民の権利義務(1臣民の性格、2日本臣民、3臣民の義務、4自由、5保護、6参政権、7自由権)、6統治の設備及方法(1立憲政体、2国会制度、3帝国議会の構成、4帝国議会の権能、5命令、6裁判所、7大権の独立、8国務大臣及枢密顧問、9立憲政体の本義)】【第3版：1913年12月】

『帝国憲法綱領 全』有斐閣、1912年6月20日【緒説(1国家、2主権、3臣民、4領土、5国体、6政体、7憲法)、上巻 国体(総説、1天皇、2帝国臣民、3帝国領土)、下巻 政体(総説、1官府(1帝国議會、2裁判所、3国務大臣及枢密顧問)、2作用(1立法権、1-2予算、2司法権、3大権))】【訂正増補3版：1914年4月15日、訂正増補4版：1914年9月25日】

『穂積八束博士論文集』上杉慎吉編・刊、1913年12月25日

国務大臣ト各省大臣『宮崎教授在職廿五年記念論文集』中田薫編、有斐閣書房、1914年5月20日【『議會政党及政府』『憂国の叫び』収録】

『帝国憲法述義』有斐閣書房、1914年12月15日【緒論(1国家、2主権、3国体、4政体、5憲法、6大日本帝国憲法)、上 国体(1天皇、2領土、3臣民)、下 政体 1官府(1帝国議會、2國務大臣及枢密顧問、3裁判所)、2作用(1法律、2予算、3裁判、4大権)】[増訂改版21版：有斐閣、1923年3月]

解題[評注含む]『政治と民意』ハンス・デルブリュック著、後藤新平訳、有斐閣、1915年4月28日[『国体憲法及憲政』収録]

『国体憲法及憲政』有斐閣書房、1916年6月25日【1国体(皇道概説、国体ニ関スル異説、再ヒ国体ニ関スル異説ニ就テ、予ノ国体論ト世論、国体ノ自覚、教育勅語ノ權威、登極令謹解)、2政体及我立憲政体(国体及政体、国体ト憲法ノ運用、民本主義ト民主主義、我憲政ノ本義、我憲政ノ根本義)、3憲法(憲法制定ノ趣旨、憲法ノ欠缺、憲法ノ解釈、自由法説非ナリ、憲法ノ解釈ト運用)、4憲法近事(近時ノ憲法問題(大正三年)、近時ノ憲法問題(大正四年)、近時ノ憲法問題(大正五年)、独逸ニ於ケル憲法ニ関スル近事)、附(政治ト民意)】

『議會政党及政府』有斐閣書房、1916年9月5日【1議會(国会ト憲法、帝国議會ノ召集開会閉会停会休会及衆議院ノ解散、議事規則ト議事妨害、緊急勅令ト其承諾、貴族院ノ職分ト構成、予算先議、予算ニ関スル貴族院ノ権能、貴族院ト予算、英国上院ノ予算拒否権、伯子男爵議員ノ選挙)、2民意代表及選挙(民意代表、民意、民意(統論)、「レフェレンダム」ニ就テ、国会ト人民代表、選挙制度ノ目的、選挙法ノ改正、選挙法ノ改正、総選挙ノ觀察、選挙法ノ改正ト貴族院、李滬士衆議院議員選挙法改正問題)、3政党(中間ノ勢力、我カ立憲政体ト大政党、大政党、非大政党主義ノ勝利)、4政府(國務大臣ト各省大臣、内閣総理大臣、内閣組織トハ何、英吉利内閣ノ改造、独逸帝国宰相ノ不信任、輔弼任責ノ範圍、官僚政治、英吉利ノ官僚政治、理想国)】

『帝国憲法講話』金光教本部編・刊、1916年10月20日[1916年8月5～7日講話]

小引[あとがき]『憲政大意 故法学博士穂積八束先生遺稿』上杉慎吉編、憲政大意發行所、1917年3月23日[再刊：日本評論社、1935年7月10日]

帝国憲政の本義を論じて寺内首相の訓示演説に及ぶ『第三十八帝国議會解散後 名士演説集』三英社、1917年4月10日

帝国憲法大意『布教講習会講演録』第4輯、日蓮宗宗務院、1918年7月10日

『デモクラシーと我が国体』金光教本部、1919年6月15日[『暴風来』収録]

『暴風来』洛陽堂、1919年11月20日[『暴風来 附普通選挙の精神 億兆一心の普通選挙』(書肆心水、2019年)収録]【国家第一、人の相関と連続、如何にか我国体の精華を發揮すべき、民主の世界潮流、多数勢力の時代、桐花会の志成るの秋、憲法発布第三十年に方りて人心の振興を促がす、普通選挙論、洋化五十年、デモクラシーと我が国体、デモクラシー平解、億兆一新世済厥美】

『国体精華乃發揚 真正日本乃建設挙国一致乃提唱』洛陽堂、1919年12月12日【国体の精華(1国体、2国体の精華、3国史の成跡)、2帝国の現状(1帝国の地位、2政權の争奪、3人心の頽廢)、3国体精華の發揚(1思想の淘汰、2国威の宣揚、3挙国皆兵、4經濟の統一、5民生の修固、6政治の刷新)】

*『独逸瓦解の原因に就て』[講演]＜パンフレット＞1921年2月＜独協大学図書館所蔵＞

『憂国の叫び』＜縮刷名家文庫 第14編＞東亜堂、1921年3月14日【序文に代へて－全国労働者に檄す－、民心悪化(1西洋崇拜の五十年、2国体異説、3非国家思想、4民心の頽廢、5思想の淘汰、6帝国の使命)、民意代表、政府論(1國務大臣と各省大臣、2内閣総理大臣、3輔弼責任の範圍)、官僚政治、理想国とは何ぞ、「レフェレンダム」に就て、比例選

挙】

『日本人の大使命と新機運』敬文館、1921年8月15日【日本人の偉大なる使命、国運一転の機運】

『国家新論』敬文館、1921年9月25日【国家結合の原力、国家の不断なる創造】

『新稿帝国憲法』有斐閣、1922年9月28日[再版：有斐閣、1924年5月26日]【1国家(国家、法、統治権)、2国体(国体、我が国体、領土、臣民)】【初版第二編国体を『新稿帝国憲法 第2編(国体)』と題して刊(桜耶書院 2015年)】

人の相関と連続『此一途 十大家執筆』太田資順・片岡寛喜編、警眼社、1922年10月10日

*『議會解散前に解散して普選を即行すべし』<パンフレット>1923年[「普選即行論」と改題『政治上の国民総動員』収録]

『全国軍人諸君に告ぐ』1923年12月15日<パンフレット>[『日米衝突の必至と国民の覚悟』『政治上の国民総動員』『日本之運命』『日の本』収録]

*『甘粕大尉ノ事ニ就テ(代口述)』[謄写印刷]1923年[『小川平吉関係文書 2』(みすず書房、1973年)収録]

*『虎ノ門事件ニ付上杉慎吉氏意見書』[『小川平吉関係文書 2』(みすず書房、1973年)収録]

『起てよ無産の愛国者』1924年1月<パンフレット>[『日米衝突の必至と国民の覚悟』『政治上の国民総動員』『日本之運命』『日の本』収録]

*『少壯憂国の同志に示す』1924年3月<パンフレット>[『日米衝突の必至と国民の覚悟』『政治上の国民総動員』『日本之運命』『日の本』収録]

『大権ノ推移ヲ虞ル』1924年6月[国立国会図書館憲政資料室所蔵『牧野伸顕関係文書』書類の部 107]

『新稿憲法述義』有斐閣、1924年7月10日【1国家(1国家、2法、3統治権)、2国体(1国体、2大日法帝国ノ国体、3天皇、4領土、5臣民)、3政体(1政体、2立憲政体、3大日本帝国ノ政体、4憲法法典、5大日本帝国憲法、6臣民権利義務、7官府、8帝国議會、9法律、10予算、11司法権及裁判所、12大権、13國務大臣、14枢密顧問)】【増補改訂版：『新稿憲法述義 全』有斐閣、1925年8月5日、第16版：『新稿憲法述義』有斐閣、1944年3月5日】

『日米衝突の必至と国民の覚悟』大日本雄弁会、1924年9月18日【日米衝突の必至と国民の覚悟、悲痛なる感慨、同胞諸君に御相談、命を棄てて国難に、此の頼もしき国民に対し、吾人の責任は真に重大、十分なる根柢基礎、徹底的なる空前の大覚悟、開戦の責任を負ふの覚悟、戦争と覚悟、戦争は必至、必至の運命、世界歴史の針路を一転、日本を目の上の瘤、有色人種たる日本人、一時の間違つた出来事、日本の地形、世界歴史上必然の勢、東方尨大国を大敗、東西に日米の対立、斯の期に及びて逡巡、背後に人種問題、世界最大の資本国、不公平なる富の分野、激烈なる富の争奪戦、侵略主義を以て推し進み、世界征服の野心、文明の汚点、米国侵略の証拠品、商業上及戦略上の足場、資本的大帝国主義を實行、完全なる金力政治の国、亜米利加大帝国、欧羅巴大戦争、一挙して大軍国、世界難、日米衝突は既に七十年来、日本軍艦十數隻が撃沈、国難来を絶叫、日本の一大敗戦、我が日本を敵、恐るべき大規模なる日本征服戦、明白なる敵意の表示、米の理不盡、前古未曾有の屈辱條約、日本の面目は丸潰れ、国民の力を以て直に戦争、全国同志の奮起、日本は果して勝つであらうか、戦はざるに既に氣負け、必敗と雖も亦戦はざるべからず、真乎国家興亡の戦、米国は世界第一、排日の如きは余りに当然、日本征服のブレパードネス、米大帝国は一夜にして成れる、戦争は実に愉快なる競技、其の国土の安全第一、哀れなる劣

弱の勢、日本の孤立無援、日本は世界第一の萎縮国、我が国民精神の頹廢、精神的には既に半亡国、国難は内に在り、奢侈放縱排斥運動、洋化時代、精神的に征服せられ、学者の米化、日本を侮るは當然、国内に於て同胞相争ひ、忠君愛国の精神も動搖、日本必敗なるも日米衝突は必至、開關以来最初にして最終なる判断、世界歴史の最大なる審判、同胞国民に御相談、日本国民の実行を以て解決、国家哲理を体得、国家は最高の道徳、国家を捨つることを得ぬ、祖国の領土は祖先の血の結晶、日本民族は本来の一体、一民族一国家、民族的信念感情、万古天皇を仰ぐ、精神的には必ず勝つ、世界的使命歴史的責任、奪還するの責任、有色人種の先頭、白人専制も末路、全有色人種に對する最後の打撃、大使命を耻かしむるもの、世界救済の第一着、唯だ力を以てのみ実現、世界史上の最後の大戦争、平和の楽地たるべき地球、侵略慾の最後の代表者、人類同胞の理想境、永久平和の曙光、米国の大規模なる世界支配、艱難なる大事業、米は既に戦端を、直ちに根本的準備に着手、尊皇攘夷、日本開關は之れより始まる、国民の天才と能力とを極度に發揮、真正の日本を建設、国民総動員、臥薪嘗膽も声のみ、自給自足の経済策、消費を最小限度に節約、生産を極度まで増加、経済上の国民総動員、労働資本の争の如きは一挙に終止、社会主義の経済論、生産主義、日本同民は全部無産者、我無産者の労働者は愛国者、起てよ無産の愛国者、資本家も亦無産者の心持、其の能力を以て全生産に参加、新文明主義、政党の争も之を止めん、政党を超越したる国民団結、政治上の国民総動員、戦時状態と覚悟、軍事上の国民総動員、国民皆兵の実行、学校を兵營、国民教育の方針、全国軍人諸君に告ぐ、附録(1起てよ無産の愛国者、2全国軍人諸君に告ぐ、3少壮憂国の同志に示す)】

『日米関係と国民の自覚』金光教典籍出版部編・刊、1924年9月30日[9月7日講演(於金光教本部)「日米関係の史的、社会的、国家哲理的考察」を収録]

有爵議員選出方法に就て貴族院改革の一提案『貴族院改革論集』報知新聞出版部、1924年11月15日

日本国民の覚悟『対米国策論集』読売新聞社、1924年12月25日

『普通選挙準備会を設立せよ』1925年1月<パンフレット>[『政治上の国民総動員』『内田良平関係文書』第8巻(芙蓉書房、1994年)収録]

*『政友本党論』1925年1月<パンフレット>

*『統帥権と国務大臣の責任とに就て或る問に答ふ』1925年2月<リーフレット>

序『日米一戦論』川島清治郎著、敬文館、1925年2月18日

現政府普選法案に反対する所以『純正普選講演会速記録』純正普選期成会、1925年3月1日[『内田良平関係文書』第8巻(芙蓉書房、1994年)収録]

*『全国の同志に檄して純正普選期成会の解散を宣言す』<リーフレット>1925年3月[『日の本』収録]

『国民の精神的一致』[勤儉奨励神奈川県委員会・教化団体連合会共催1924年12月6日国力振興講演会(於横浜市社会館)]<教化資料 第20輯>教化団体聯合会、1925年4月2日[『教化資料集』第1編(教化団体連合会、1925年8月15日)、横山恵正編『社会教化の指針』(天晴地明会1927年2月11日)、『政治上の国民総動員』、『日本之運命』収録]

『世界を征服せんとする米大帝国』スコット・ニアリング著・上杉慎吉・稲葉一也共訳、未来社、1925年5月22日

『普選大成運動趣旨』普選大成会、1925年5月25日

『普通選挙の精神 同胞国民に告ぐ』敬文館、1925年8月1日[『暴風来 附普通選挙の精神 億兆一心の普通選挙』(書肆心水、2019年)収録、普及版：1927年8月]【序言(若干の責任、

準備運動)、1 国民総動員(危急存亡の秋、国難来、政治上の国民総動員、国民全体の負担すべき責任、日本民族当然の運命、国民一致の精神力、世界歴史上の大使命、米の排日問題、自主的外交、国際的地位衰頹の第一歩、2 更始一新(政党の墮落、政党の末路、公明正大なる政治、政權の私擅偏倚、階級的偏見)、3 和衷協同の生活(国家存立の理想、国家の創造、人格の一切平等なる発展、階級闘争、国民和衷協同の生活、平穩公正なる改革、資本家の心掛け、何人も皆無産者、貧乏の苦痛、国民の愛国殉公の至誠、起てよ無産の愛国者、億兆萬民の心、4 億兆一心(民主共和の思想、専制君主、国民の真の心、我が日本国家、我が国体の精華、普選の大精神、5 臣民の翼賛(種々なる翼賛の道、明治維新、選挙制度の精神、制限選挙制度、全国民を代表する者、普通選挙制度、聖代の盛事、国民の真心、選挙の悪弊の矯正、見事なる成果、政治教育の方法)

『国家論』有斐閣、1925年9月22日【1 国家(1 哲理的国家、2 歴史的国家、3 国家の構成)、2 法、3 統治權】

『国体論』有斐閣、1925年9月22日【1 国体、2 我が国体(1 我が国体、2 天皇)、3 領土、4 臣民】

国家の本質と我が国体及憲法『自治講習会講演集』藤田政平編・刊、1925年11月15日

*『起てよ無産者』1926年3月

『斯の心国を救はん』大成会、1926年7月4日[『政治上の国民総動員』『日本之運命』収録]

『億兆一心の普通選挙』中央報徳会、1926年9月17日[『暴風来 附普通選挙の精神 億兆一心の普通選挙』(書肆心水、2019年)収録]

朴烈問題解決の唯一方策『朴烈問題の批判』鶴山学堂編・刊、1926年10月10日

『新興之勢力 国事に当るの第一着手』日本学術普及会、1926年10月10日【新興の勢力、普選即時断行論】[『政治上の国民総動員』『日の本』収録]

国家の信仰『瞻仰』瞻仰会、1926年11月1日

普選即行の政治的準備『国民政治の言論戦』帝国政治雄弁協会編・刊、1926年12月13日

*『友友会會員諸君ニ呈ス』(謄写印刷)[『小川平吉関係文書2』(みすず書房、1973年)収録]

『政治上の国民総動員』日本学術普及会、1927年2月11日【1 国家と人生、2 国家の運命、3 普通選挙準備会を設立せよ、4 全国軍人諸君に告ぐ、5 少壮憂国の同志に示す、6 起てよ無産の愛国者、7 所懐を陳して挙国の青年に告ぐ、8 帝国憲政の過去及現状と普通選挙に対する準備、9 挙国一致の普通選挙、10 普選即行論、11 国民の精神的一致、12 斯の心国を救はん、13 新興勢力国事を担当するの第一着手】

*国民の精神的一致『社会教化の指針』天晴地明会、1927年2月

『選挙及普通選挙』<成人教育資料 第1輯>福岡県社会教育課、1927年4月10日

大日本帝国憲法講義『現代法学全集』第1・2・3巻、日本評論社、1928年2月8日、4月15日、5月25日[合冊本：『帝国憲法逐條講義』日本評論社、1935年5月15日]【1 天皇、2 臣民權利義務、3 帝国議會、4 国务大臣及枢密顧問、5 司法權、6 会計、7 補則】

『憲法読本』日本評論社、1928年2月15日[復刻版：日本評論社、2016年]【1 新原理、2 日本国家、3 きたる憲法、4 昭和新政、5 不磨の大典、6 臣民の翼賛、7 理想国家、8 天皇、9 大権中心、10 大権、11 立憲政治、12 臣民の義務、13 臣民の權利、14 自由權、15 司法權の獨立、16 立法權の職能、17 帝国議會、18 公選、19 普通選挙、20 選挙の實際、

21 多数主義、22 衆議院の本領、23 議会の実情、24 解散、25 貴族院の職能、26 帝国議会の議事、27 法律、28 勅令、29 予算の効力、30 予算の議定、31 大臣責任、32 政府と議会】

『帝国憲法』〈帝国大学講座 2〉国文社出版部、1929年2月15日【緒論(1 国家の本質論、2 国家創造論)、2 憲法論(1 国家の法理的説明、2 国家思想、3 立憲政治の確立、4 代表制度、5 国家法人説、6 日本憲法論、7 立憲政体、8 立憲政体論、9 議会の解散)】

大和民族の力『大日本護国会講演輯録』大日本護国会、1929年4月10日

国民精神の作興『これからの新しい演説』東京雄弁協会編、大阪堂、1930年1月20日

『日の本』上杉正一郎編・刊(非売品)、1930年4月7日【国家の価値、大学を読む、憲政大意小引、河上肇法学士の憲法論に付き、国家学史上に於けるヘーゲルの地位、閥族政治末路に近く、国体と憲法の運用、政党の存在を容さず、太平洋会議と軍備問題、機能麻痺の政治機関、社会学の動機、須く神武創業の始に原くへし、天下無双、全国軍人諸君に告ぐ、少壮憂国の同志に示す、起てよ無産の愛国者、新たなる政権争奪の好餌貴族院の改革、机辺閑話、何を書くとはなしに、全国の同志に檄して純正普選期成会の解散を宣言す、所懐を陳して挙国の青年に告ぐ、庭前の景情、民衆礼儀、仮寝書屋随筆、相互教育、新興の勢力、普選即時断行論、蹶起せよ愛国の士、解散の道徳、箕距漫筆、当世七不思議、日本は何処へ往く道理と正義の敵ムツソリニ論、誰が国家を担当する、憂ふべき緊急勅令、日本新聞同人に寄す、恐怖時代の製造】

『日本之運命 五・一五事件予言』日本学術普及会、1933年9月18日[改訂版：9月26日]
【1 新興勢力国事を担当するの第一着手、2 全国軍人諸君に告ぐ、3 少壮憂国の同志に示す、4 起てよ無産の愛国者、5 挙国青年の奮起を促す、6 帝国憲政の過去及現状、7 国家と人生、8 国家の運命、9 国民の精神的一致、10 斯の心国を救はん、11 勤儉貯蓄の弊】

『精神動員の根柢』〈国民ライブラリー〉日本学術普及会、1937年9月15日

上杉慎吉社会学遺稿(抜粋)『経済学批判への契機』竹村民郎編、三一書房、1974年2月15日

『暴風来 附普通選挙の精神 億兆一心の普通選挙』書肆心水、2019年1月【『暴風来』(洛陽堂、1919年)、『普通選挙の精神』(敬文館、1925年)、『億兆一心の普通選挙』(中央報徳会、1926年)を収録】

講義録

憲法[「高等専攻科講義」]『法学講義録 第一年級 明治三十七年度 第十一号』日本大学、1904年1月13日

『行政法各論』〈法政大学 39年度第3年級講義録〉法政大学、1906年

『憲法』〈明治大学法律科 42年度第1学年講義録〉明治大学出版部、1909年

『行政法』〈明治大学警察科 44年度講義録〉明治大学出版部、1911年

『行政法』〈中央大学 45年度法律科第三学年講義録〉中央大学、1912年

『憲法』〈中央大学法律科 45年第1学年講義録〉中央大学、1912年

『憲法』〈明治大学警察科 45年講義録〉明治大学出版部、1912年

『帝国憲法』〈大正3年度東京帝国大学講義〉1914年

『帝国憲法 上巻』〈大正7年度東京帝国大学講義〉大洋社、1918年2月26日

『帝国憲法 大正十二年度東大講義』1922年11月

『帝国憲法』〈大正13年度東京帝国大学講義〉学生共同刊行会、1924年

2. 論文等(新聞・雑誌掲載)<493 篇>

1893(明治 26)年

ねむけさまし[「芳園」]『少年園』117、9月3日

1902(明治 35)年

河上法学士ノ憲法論ニ付キテ[「雑録」]『国家学会雑誌』189、11月20日[『日の本』収録]

自殺＝一定ノ法則又ハ定則ニ從テ発生シ變動シ又ハ其間一定ノ常序ノ存スルト稱セラル、社会現象ノ一トシテ自殺ノ此見地ヨリスル実証的觀察[「雑録」]『国家学会雑誌』190、12月20日

1903(明治 36)年

社会主義と法律との関係汎論『法学協会雑誌』21-1、1月1日

公法学ノ独立『国家学会雑誌』200、10月20日

プラトーンノ国家論『明治法学』64、66、12月8日、**1904年**1月8日

ジャン、ボダーンノ主権論『法学志林』51、12月15日

近世ノ帝王神権説『法政新誌』7-13、12月20日

1904(明治 37)年

多数決[「雑録」]『法学協会雑誌』22-1、1月1日

碩学スペンサア先生を弔ふ[「雑報」]『法学協会雑誌』22-2、2月1日

専売ノ性質ヲ論ス『法学志林』53、2月15日

娼妓ニ課スル賦金ハ法律上如何ナル性質ヲ有スルヤ[「政七五(娼妓賦金ノ性質)」]『法典質疑録』7-2、2月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻 43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

町村内ノ区(大字)又ハ町村内ノ一部(小字)ハ法人ノ権利ヲ有セサルヤ[「政七六(大字小字ノ人格)」]『法典質疑録』7-2、2月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻 43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

行政行為ト政治行為トノ區別ヲ説明セラレタシ[「政七七(行政行為ト政治行為)」]『法典質疑録』7-2、2月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻 43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

歩一税ト云フコトアリ如何ナル税ナリヤ[「政七八(歩一税)」]『法典質疑録』7-2、2月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻 43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

法律裁可ノ性質ニ就テ『法学協会雑誌』22-3、3月1日

カントノ国家論[「雑録」]『法学協会雑誌』22-5、5月1日

社会ノ指導者『法政新誌』8-5、5月6日

官吏ノ任命ハ契約ノ性質ヲ有ストノ説明ノ当否如何[「政七九(官吏任命ノ性質)』』『法典質疑録』7-5、5月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

財産権ノ主体トシテ国家ノ外ニ特ニ国庫ナルモノヲ認ムルコトヲ要スルヤ[「政八十(国庫)』』『法典質疑録』7-5、5月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

市制第三十条、町村制第三十二条ニ市町村会ハ市町村ヲ代表シ云云トアリ市町村会ハ果シテ市町村ヲ代表スルモノナリヤ若シ然ラストスレハ本条代表ノ意義如何[「政八一(市町村ノ代表)』』『法典質疑録』7-5、5月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

オースチンノ主権及ビ公法ニ関スル学説『国家学会雑誌』207、5月20日

公用徴収ノ性質如何[「解疑』』『法学志林』57、6月15日[『法典質疑録 上巻』(法政大学、1908年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻23』(信山社、平成5年)収録]

私人ノ所有地ヲ公共ノ道路ト為サントスルニハ公用徴収ノ処分ニ依リ其所有権ヲ国家又ハ公共団体ニ移スコトヲ要スルヤ[「政八六(道路)』』『法典質疑録』7-6、6月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

国家学史上に於けるヘーゲルノ地位[雑録]『法学協会雑誌』22-7、7月1日[『日の本』収録]

民約説ノ先駆[「雑録』』『法学協会雑誌』22-9、9月1日

清水教授ノ新著憲法論[「雑報』』『法学協会雑誌』22-9、9月1日

鉄道停車場ノ所得ニ対スル市町村税(所得税附加税)ノ賦課及追徴『法典質疑録』7-9、9月15日

同一事件ヲ訴願シ更ニ訴訟ニ変スルノ理由如何[「政九三(訴願ト訴訟トノ関係)』』『法典質疑録』7-9、9月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

所謂待遇官吏タル公立中学校、高等女学校、専門学校職員、市町村立小学校長及教員巡查、看守ノ如キ者カ予備後備又ハ補充兵役ニアリ陸軍給与令ニ依リ俸給ヲ受クル間ハ明治二十四年七月勅令第百六十二号ノ例ニ依ルヘキモノトスベキヤ[「政九四(待遇官吏ノ意義)』』『法典質疑録』7-9、9月15日

町村有造営物ハ特ニ管理者ヲ置クコトヲ許シアルニ町村有財産ニハ何等明文ナシ絶対ニ許サルノ意ナルヤ他ノ地方制度ニハ營造物ト同一ニ他ニ管理者ヲ置クコトヲ得理由示教ヲ乞フ[「政九五(町村有財産ノ管理人)』』『法典質疑録』7-9、9月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

町村制第十五条ノ他人ノ為メニ裁判所又ハ其他ノ官庁ニ対シテ事ヲ弁スルヲ以テ業ト為ス者トハ如何ナル者ヲ指ス意ナルカ請負業代弁業者ハ如何[「政九六(町村制第十五条ノ事ヲ弁スルヲ以テ業トストノ意義)』』『法典質疑録』7-9、9月15日[『法典質疑問答』第7編(中外出版社、1906年)、復刻版『日本立法資料全集 別巻43 法典質疑問答 第7編』(信山社出版、1994年)収録]

帝国議会ノ議員ハ其歳費ヲ差押ヘラレアルニ拘ラス受クルノ権ヲ抛棄スルコト得ルヤ[「質疑

応答]『法政新誌』8-10、10月6日

衆議院議員選挙法第十三条第二項ニ規定シタル政府ノ為メニスル請負云々ナル請負ノ意義如何[「質疑応答」]『法政新誌』8-12、12月6日

1905(明治 38)年

国家主権説の発達[雑録]『法学協会雑誌』23-1、1月1日

所謂少数代表又ハ比例代表ノ選挙[「雑録」]『国家学会雑誌』19-3、3月1日

松本丞治君著商法原論[「雑報」]『法学協会雑誌』23-3、3月1日

戸水博士著堯舜時代の制度[「雑報」]『法学協会雑誌』23-3、3月1日

法学士吉野作造君著ヘーゲルの法律哲学の基礎[「雑報」]『法学協会雑誌』23-3、3月1日

民法第二百六条ノ所有権ハ公権ニ非ス『法学新報』15-3、3月10日

自由権『日本法政新誌』9-4、4月6日

便宜ノ原則『法学志林』7-4、4月10日

天皇ノ国法上ノ地位ヲ論ス『法学協会雑誌』23-5、6、5月1日、6月1日

循吏伝『国家学会雑誌』19-10、10月1日[中国語訳『活学』(奎文館、1906年6月10日)]

国家家産説[「雑録」]『法学協会雑誌』23-10、10月1日[目次にはないが1422～1428頁に掲載]

立憲政治ノ妙用『日本法政新誌』9-10、10月6日

緊急命令ノ承諾『法学志林』7-10、10月20日

1906(明治 39)年

大臣責任論『法学協会雑誌』24-2、3、2月1日、3月1日

兵役ト自治『法学新報』16-2、2月1日

非立憲『日本法政新誌』10-3、3月6日

町村制第四〇条ノ議長代理者共ニ故障アル町村会ノ場合年長議員ハ理由ナクシテ議長タルヲ拒否スルヲ得ヘキヤ要之年長者カ議長トナルハ権利ナルト共ニ又義務ナリヤ[「法典質疑録」]『法学志林』8-3、3月20日[『法典質疑録 上巻』(法政大学、1908年4月20日)、復刻版『日本立法資料全集 別巻 23 法典質疑録 上巻』(信山社出版、1993年)収録]

法律学ノ基礎タル思想『明治学報』101、4月1日

1909(明治 42)年

官僚政治『法学協会雑誌』27-9、9月1日[『議会政党及政府』『憂国の叫び』収録]

我が立憲政体と大政党『太陽』15-13、10月1日[『議会政党及政府』収録]

二個の謬見 官吏の俸給と貴族院の性質に就て『太陽』15-14、11月1日

美濃部博士著日本行政法第一卷[「雑報」]『法学協会雑誌』27-12、12月1日

1910(明治43)年

独逸ニ於ケル憲法ニ関スル近時『国家学会雑誌』24-1、2、1月1日、2月1日[『国体憲法及憲政』収録]

土耳其帝国憲法[「雑録」]『法学協会雑誌』28-1、2、1月1日、2月1日

大政党『国民新聞』1月12日[『議会議政及政府』収録]

李滯士衆議院議員選挙法改正問題[「時観」]『法学協会雑誌』28-3、3月1日[『議会議政及政府』収録]

英国上院ノ予算拒否権『法学新報』20-3、3月1日[『議会議政及政府』収録]

緊急勅令ト其承諾、初出未詳、4月[『議会議政及政府』収録]

英吉利ノ官僚政治、初出未詳、4月[『議会議政及政府』収録]

行政法要論 行政篇上卷之上及日本行政法第二卷[「雑報」]『法学協会雑誌』28-7、7月1日

政体ノ批判『法学志林』12-9、9月20日

憲法ノ欠缺『法学協会雑誌』28-10、11、10月1日、11月1日[『国体憲法及憲政』収録]

立法、司法及行政『法学新報』20-10、10月1日

Die öffentlich-rechtliche Gesetzgebung in Japan, Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart, 4 Bd.

1911(明治44)年

婦人問題『太陽』17-1、1月1日

婦人問題は如何にして解決すべきや(上)『婦人乃鑑』1、1月1日

国体及政体『法学協会雑誌』29-1、1月1日[星島二郎編『最近憲法論 上杉博士対美濃部博士』(実業之日本社、1913年、みすず書房、1989年)、『国体憲法及憲政』収録]

*国体ト憲法ノ運用『偕行社記事』423附録、1月20日

婦人は男子にあらず『婦人画報』52、2月1日

国会ト人民代表『法学志林』13-2、2月20日[『議会議政及政府』収録]

「レフエレンダム」ニ就テ『国家学会雑誌』25-3、3月1日[『議会議政及政府』『憂国の叫び』収録]

エリネック教授を弔す[「雑録」]『法学協会雑誌』29-3、3月1日

暴言を吐く婦人に同情す[文責在記者]『婦人画報』53、3月1日

英吉利に於ける政治的勢力の推移『雄弁』2-3、3月1日

国会政治の趨勢『実業世界』41、3月3日

婦人職業問題は何故に起りしか[文責在記者]『婦人画報』54、4月1日

伯子男爵議員ノ選挙『法学新報』21-4、4月1日[『議会政党及政府』収録]
中間の勢力『新日本』1-5、5月1日[『議会政党及政府』収録]
独逸の農村にコンナ面白味がある『青年及青年団』2-7、9、10、7月1日、9月1日、10月1日
健実の勉強法『中学世界』14-9、7月1日
憫むべき下婢と給仕女『婦人画報』58、7月1日
寛博士著仏教哲理及法理戯論[雑報]『法学協会雑誌』29-7、7月1日
無邪気な墮落者と罪なき私生児[文責在記者]『婦人画報』59、8月1日
公設住家制度[「雑録」]『法学協会雑誌』29-8、8月1日
容姿艶麗なる不具の婦人[文責在記者]『婦人画報』60、9月1日
独逸の農村『雄弁』2-9、9月1日
住家問題に就て『社会政策』1-7、10月1日
独逸の農村近況[「思潮」]『初等教育』40、10月1日
予算に関する貴族院の権能『太陽』17-13、10月1日[『議会政党及政府』収録]
婦人全体の栄位を傷ける婦人[文責在記者]『婦人画報』62、11月1日
予算先議(帝国憲法第六十五条ヲ論ス)『法学協会雑誌』29-11、11月1日[『議会政党及政府』収録]
Die Gesetzgebung in Japan im Jahre 1909, Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart, 5 Bd.

1912(明治45・大正元)年

選挙制度ノ目的、初出未詳、2月[『議会政党及政府』収録]
選挙法の改正と貴族院『新日本』2-3、3月1日[『議会政党及政府』収録]
選挙法の改正に就て『太陽』18-4、3月1日[「選挙法ノ改正」と改題]『議会政党及政府』収録]
婦人の愛国心発表の方法『婦人画報』68、4月1日[「婦人の愛国心」と題して、石川喜美子編『当代名家百人の観たる女』(日本書院、1918年10月)収録]
国体ニ関スル『憲法講話』ノ所説『国家学会雑誌』26-6、6月1日
総選挙の觀察『新日本』2-6、6月1日[『議会政党及政府』収録]
美濃部博士著憲法講話[「新著批評」]『新日本』2-6、6月1日
国体に関する異説『太陽』18-8、6月1日[星島二郎編『最近憲法論 上杉博士対美濃部博士』(実業之日本社、1913年)、『国体憲法及憲政』、今井清一編『大正思想集 I』<近代日本思想体系 33>(筑摩書房、1978年)収録]
機関トイフ語『法学新報』22-6、6月1日
明治四十四年中等教員夏期講演会に於る美濃部博士の国体論『教育学術界』25-3、6月10日

世間は之を何と見る 国体に関する異説に就て『国民新聞』7月10日[『新聞集成大正編年史 大正元年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1978年)収録]

再び国体に関する異説に就て『太陽』18-11、8月1日[星島二郎編『最近憲法論 上杉博士対美濃部博士』(実業之日本社、1913年)、『国体憲法及憲政』収録]

1913(大正 2)年

Gesetzgebung in Japan in den Jahren 1910-1912, Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart, 7 Bd.

皇道概説 古神道大義ヲ読ム『国家学会雑誌』27-1、1月1日[『国体憲法及憲政』収録]

予の国体論と世論『太陽』19-1、1月1日[星島二郎編『最近憲法論 上杉博士対美濃部博士』(実業之日本社、1913年)、『国体憲法及憲政』収録]

自由法説非ナリ『法学協会雑誌』31-1、1月1日[『国体憲法及憲政』収録]

閥族政治末路に近づく[「桂内閣の立憲的価値」]『太陽』19-2、2月1日[閥族政治末路に近く『日の本』収録]

余の解釈『大阪毎日新聞』[帝国憲法発布二十五年記念号]2月11日[『新聞集成大正編年史 大正二年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1969年)収録]

我憲法と政局[「政局紛糾の源をなせる憲法問題」]『中央公論』28-4、3月1日

貴族院ト予算、初出未詳、3月[『議会議政及政府』収録]

国体の自覚『新日本』3-4、4月1日[『国体憲法及憲政』収録]

教育勅語の權威『太陽』19-5、4月1日[『国体憲法及憲政』収録]

区々たる宮内省問題[「宮内省改革論」]『太陽』19-6、5月1日

民本主義と民主主義『東亞之光』8-5、5月1日[『国体憲法及憲政』、太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 上巻』(新泉社、1971年)収録]

内閣総理大臣『法学志林』15-5、5月20日[『日本警察新聞』268、1913年8月11日に転載、『議会議政及政府』『憂国の叫び』収録]

*憲法発布の主旨『愛国主義』[27]、5月

新しい意味の良妻賢母『婦人画報』83、6月1日[「現代の良婦賢母」と題して、石川喜美子編『当代名家百人の観たる女』(日本書院、1918年10月)収録]

貴族院ノ職分ト構成『法学協会雑誌』31-6、6月1日[『議会議政及政府』収録]

新しい良妻賢母主義『太陽』19-9、6月15日

国体と憲法の運用[憲政研究会における講話]『太陽』19-10、7月1日[星島二郎編『最近憲法論 上杉博士対美濃部博士』(実業之日本社、1913年、みすず書房、1989年)、『国体憲法及憲政』『日の本』収録]

*民本主義と民主主義『愛国主義』[29]、7月

議会解散の意義『サンデー』230、8月3日

各国建国の異同[「学説政務」]『教育時論』1019、8月5日[憲政研究会に於ける講演「国体と

憲法の運用」中の 2 節を掲載、憲政研究会の講演集から]

副署ヲ公式トスル勅定ノ文書『法学協会雑誌』31-9、9月1日

1914(大正 3)年

誤てる皇室令の解釈『御即位礼画報』1、1月1日

「子弟の方針問題に対する諸教授の意見」『実業之日本』17-1、1月1日

現行法令ノ形式及形式的効力『法学協会雑誌』32-1、1月1日

議事規則ト議事妨害『法学新報』24-3、3月1日[『議会政党及政府』収録]

上院の修正権は憲法の妙機『新日本』4-4、4月3日

近時ノ憲法問題[「時観」]『法学協会雑誌』32-5、5月1日[『国体憲法及憲政』収録]

大権政治の見地より[「山本内閣の倒壊と大隈内閣の成立」]『太陽』20-6、5月15日

独逸帝国宰相ノ不信任[「時観」]『法学協会雑誌』32-6、6月1日[『議会政党及政府』収録]

日本に内閣組織なし[「理想的内閣組織」]『太陽』20-8、6月15日[「内閣組織トハ何」と改題『議会政党及政府』収録]

民意代表『法学協会雑誌』32-9、12、9月1日、12月1日[『議会政党及政府』『憂国の叫び』収録]

「現代諸名家の青年訓及座右銘」『青年及青年団』5-10、10月1日

帝国議会召集開会閉会休会休会及衆議院ノ解散『国家学会雑誌』28-10、10月1日[『議会政党及政府』収録]

民意代表『世界』125、128、10月10日、1915年1月14日[『法学協会雑誌』から転載]

国史と憲法[11月21日史学講演会講演大意筆記(於国学院大学講堂)]『教育時論』1067、12月5日

1915(大正 4)年

生活問題解決の第一歩『朝鮮公論』3-11、1月1日

憲法ノ解釈『法学志林』17-1、1月20日[『国体憲法及憲政』収録]

政党の存在を容さず[「政党改造の要否如何」]『大日本』2-2、2月1日[『日の本』収録]

選挙権問題[談]『読売新聞』2月10日

選挙権の貴重な理由[文責在記者]『農業世界』10-4、3月1日

憲法の解釈[「論説」]『日本警察新聞』325、3月11日

娼婦公認制度の誤謬『廓清』5-3~5、3月15日、4月15日、5月15日

憲法制定の趣旨『早稲田講演』5-4、4月1日[『国体憲法及憲政』収録]

由々しき大事[談]『国民新聞』4月9、10日

非大政党主義の勝利—総選挙所感—『太陽』21-5、5月1日[「非大政党主義ノ勝利」と改題『議
会政党及政府』収録]

近時ノ憲法問題[「時観」]『法学協会雑誌』33-5、5月1日[『国体憲法及憲政』収録]

国会ト憲法『法学新報』25-5、5月1日[『議会政党及政府』収録]

英吉利内閣ノ改造、初出未詳、5月[『議会政党及政府』収録]

民意『法学協会雑誌』33-6、6月1日[『議会政党及政府』収録]

民意『世界』134、135、7月10日、8月12日[『法学協会雑誌』から転載]

大日本か小日本か[「世界の大変局と戦後の日本」]『やまと新聞』7月14～16日[『新聞集成
大正編年史 大正4年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1980年)収録]

憲法ノ解釈ト運用『法学協会雑誌』33-8、8月1日[『国体憲法及憲政』収録]

理想国[「日曜論壇」]『国民新聞』8月30日[『議会政党及政府』、「理想国とは何ぞ」と改題『憂
国の叫び』収録]

統民意論『法学協会雑誌』33-9、9月1日[「民意(統論)」と改題『議会政党及政府』収録]

国会と憲法[「論説」]『日本警察新聞』344、9月21日

登極令謹解『法学協会雑誌』33-11、11月1日[『国体憲法及憲政』収録]

国体の意識を刺戟せよ[談]『教育時論』1101、11月15日

登極令謹解『世界』139、12月10日[『法学協会雑誌』から転載]

1916(大正5)年

輔弼任責ノ範圍『法学新報』26-1、1月1日[『議会政党及政府』『憂国の叫び』収録]

我憲政ノ本義『法学志林』18-1、1月20日[『国体憲法及憲政』収録]

天皇論『黒潮』1-2、2月1日

我憲政の主義[「論説」]『日本警察新聞』358、359、2月11、21日

我が憲政の根本義—議院中心の憲政論を排す—『中央公論』31-3、3月1日[『国体憲法及憲
政』、太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 上巻』(新泉社、1971年)収録]

大臣任免の大権は我憲政の骨子『世界』141、4月1日

近時ノ憲法問題『国家学会雑誌』30-5、5月1日[『国体憲法及憲政』収録]

故法学博士穂積八束先生遺稿憲政大意[編]『世界』142～148、5月1日、6月1日、7月1
日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日[上杉慎吉編『憲政大意 故法学博士穂積八
束先生遺稿』(憲政大意発行所、1917年)刊、「憲政大意小引」のみ『日の本』収録]

国家と道德『博愛』350、6月10日

三党首領会合覚書の批判[「三党首領会議の批判」]『中央公論』31-7、7月1日

[「私の健康法」]『読売新聞』7月14日

国家の根本義『日本評論』16、8月1日

1917(大正 6)年

- *[「千葉県下対抗演習を観る」]『オリンピア』2-1、1月1日
- 「戦争は何時止むか」『実業之日本』20-1、1月1日
- 英国の政党政治を説て日本の哲人政治に及ぶ[「哲人政治の研究」]『日本評論』2-1、1月1日
- 大学ヲ讀ム『法学協会雑誌』35-1、1月1日[『日の本』収録]
- 乗馬学校の設立を希望す『畜産』3-1、1月10日
- *帝国憲法の精神を論じて寺内内閣及政党政治に及ぶ『維新公論』12-1、1月
- 解散『国家学会雑誌』31-3、3月1日
- *解散明辨『世界』臨時増刊、3月12日
- 衆議院の本質と議員の資格『国民新聞』3月27～31日、4月1日
- 帝国憲法の精神と選挙の意義『日本評論』2-4、4月1日
- [無題の『我が国』発刊に際しての述志]『我が国』153、1917年5月10日[目次にはないがp.6に掲載]
- 我が国体に就て『我が国』153、5月10日
- 憲法と国民の覚悟『愛知教育雑誌』355、5月20日
- 寺内伯の決心覚悟すべき所『我が国』154、6月1日
- 諸大臣の訓示を読む『我が国』155、7月1日
- 憲法と国民の覚悟『我が国』155、7月1日
- 第三十九回帝国議会通観『我が国』156、8月1日
- 民主の世界潮流の何たるかを明かにして国民の自覚を促がす『我が国』157、9月1日[「民主の世界潮流」と改題『暴風来』収録]
- [「現代学生の学力は減退したか進歩したか」]『新公論』32-11、10月1日
- 無能国民、無能青年[「現代の青年に与ふる書」]『日本評論』2-10、10月1日
- 暴風来『国民新聞』10月8、9日[『新聞集成大正編年史 大正六年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1981年)収録]
- 破壊より建設へ 眠れる者よ眼覚めよ『自由評論』5-10、10月15日
- 多数勢力の時代『我が国』158、11月1日[『暴風来』収録]
- 民本主義『我が国』159、12月5日

1918(大正 7)年

興国乎亡国乎日本帝国の大機に臨みて『国家第一』を提唱す『日本評論』80、1月1日

国家第一『我が国』160、1月1日[『暴風来』収録]
憲法論は定まる『我が国』161、2月3日
暗流怖るべし『国論』4-2、2月5日
我が立憲の精神[「現代思潮」]『教育時論』1183、2月25日
日本帝国の使命[「帝国参戦の目的如何」]『太陽』24-3、3月1日
我が立憲の精神(憲法発布第三十年に方りて)『我が国』162、3月5日
民主主義、立憲主義『我が国』162、3月5日
小学校教員免許状並に辞令交付式に於ける講演『愛知教育雑誌』365、4月30日
国家と道徳『一徳』41、4月30日
西洋立憲の由来と我立憲の精神『朝鮮彙報』40、5月1日
我が国体の世界的權威『我が国』166、7月1日
挙国一致同盟会創設論『朝鮮公論』6-10、10月1日
[「如何なる条件を以て媾和は成立すべき乎」]『大観』1-7、11月1日
首相としての一特色[「原内閣論」]『国論』4-11、11月5日
普通選挙を希望[談、「議会の諸問題」]『大阪朝日新聞』12月27日(普通選挙希望『東京朝日新聞』12月28日)[『新聞集成大正編年史大正七年度版下』(明治大正昭和新聞研究会、1977年)収録]

1919(大正 8)年

国体の精華を發揮するの秋『中央公論』34-1、1月1日
中野正剛君に与ふる書『東方時論』4-1、1月1日
[「当代名士語録」]『雄弁』10-1、1月1日
桐花会の志成るの秋『我が国』172、1月1日[『暴風来』収録]
我が国体と国民的自覚—欧州大戦の重大教訓—『朝鮮公論』7-2、2月1日
我一身は公の物『婦人画報』156、2月1日
憲法発布第三十年に方りて人心の振興を促がす『我が国』173、2月1日[『暴風来』収録]
如何にか国体の精華を發揮せん『我が国』173、2月1日[『暴風来』収録]
憲法発布に関する山県老公の談話『我が国』173、2月1日
普通選挙論『国民新聞』2月4日[『暴風来』収録]
普通選挙は国体の精華也 古来の理想を實行するのみ『神戸新聞』2月20日
国政革新の急務[「現代思潮」]『教育時論』1219、2月25日
普通選挙論[「雑纂」]『教育学术界』38-6、3月1日
非国体論の横行『我が国』174、3月1日

洋化五十年『我が国』174、3月1日[『暴風来』収録]
普通選挙に就て『我が国』174、3月1日[『国民新聞』から転載]
新妻中尉『我が国』174、3月1日
微志を桐花会員諸君に告ぐ『我が国』174、3月1日
普通選挙論[「講演」]『日本法政新誌』16-3、3月10日
国体上より観たる労働問題[文責在記者]『東京経済雑誌』1996、3月15日
デモクラシーと我が国体『我が国』175、4月1日[『暴風来』収録、『デモクラシーと我が国体』(金光教本部、1919年6月15日)刊]
道徳の変不変[談]『福岡日日新聞』4月21日
内は統一外は自由[巻頭言]『我が国』176、5月1日<<無署名>>
人の相関と連続『我が国』176、5月1日[『暴風来』収録]
国際連盟と主権『我が国』177、6月22日
支那の排日運動『我が国』177、6月22日
デモクラシー平解『我が国』177、6月22日[『暴風来』収録]
億兆一心世世濟厥美『東方時論』4-8、8月1日
憂ふべき悪思想[「雑纂」]『教育時論』1238、9月5日
国力の素原『我が国』179、9月1日
国家主義の労働運動観『自由評論』7-10、10月1日
即時又は九十九年後[「山東(青島)還付の時期方法及び条件如何?」]『公論』1-1、10月13日
[「普通選挙実施の時期方法及び利害」]『公論』1-2、11月1日

1920(大正9)年

分担の説『教育研究』200、1月1日
[「現代名士の社会主義観」]『新公論』35-1、1月1日
[「新時代の教育に任ずべき今後の教育者に与ふる言葉」]『教育時論』1250、1月5日
西伯利増兵の急要『国民新聞』1月19日[『新聞集成大正編年史 大正九年度版上』(明治大正昭和新聞研究会、1982年)収録]
洋行を止めて心配顔の上杉博士[談]『東京朝日新聞』1月20日
問題及び問題の解決者『我が国』183、1月23日
国体信念の確立[1919年10月講演速記]『千葉教育雑誌』333、334、1月31日、2月29日
独逸新憲法の成立[「雑録」]『国家学会雑誌』34-3、3月1日
全国労働者に檄す[「諸名士の社会主義批判」]『自由評論』8-4、4月1日
雨が降っても風が吹いても日本の根本思想に何等変化を来さぬクロボトキン思想は日本を破

壊す[談]『新世界』4月19日
改造途上の欧米 大戦に自覚せる人心[談]『東京朝日新聞』11月14日
我国第一主義[「日曜論壇」]『国民新聞』12月26日

1921(大正 10)年

外遊所感『教育研究』217、1月1日
大権に関する非違二項『国家学会雑誌』35-1、1月1日
世界の混乱と帝国の使命『太陽』27-1、1月1日
日本人の偉大なる使命『東京日日新聞』1月1、3～22、24、31日(日本の偉大な使命『大阪毎日新聞』1月5～7、9、11～16、19、20、22日)[『日本人の大使命と新機運』『新聞集成大正編年史 大正十年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1982年)収録]
人の相関原理[談]『新愛知』1月20日
権力集中の政治と帝国『朝鮮公論』9-2、2月1日
復旧すべき現代文明—思想、社会問題の帰趣—『日本一』7-2、2月1日
奮闘努力の精神『雄弁』12-2、2月1日
結局人種の大争闘[「名流譚叢」]『神風』321、2月11日
局面打開の精神[談]『やまと新聞』2月14日
国家及国家主義の理論『国学院雑誌』27-2、3、2月15日、3月15日
芸妓廃止論『実業之世界』18-3、3月1日
国家結合の原力『中央公論』36-3、3月1日[『国家新論』収録]
人の充実発展『帝国青年』6-3、3月1日
世界に不評判なる日本『現代』2-4、4月1日
生活改善の根帯『大鵬』1-4、4月1日
国家の不断なる創造『太陽』27-4、4月1日[『国家新論』収録、[「思潮集録」]『弘道』357、1921年12月に抄録]
国運一転の機『東京日日新聞』4月5～18、20、22～26日[「国運一転の機運」と改題『日本人の大使命と新機運』収録]
国民皆無知[「名流譚叢」]『神風』327、4月11日
国体の精華[「名流譚叢」]『神風』328、4月21日
[「新聞記者に望む」]『現代』2-5、5月1日
科学知識普及の急務『日本化学工業新聞』5-9、5月1日
日本征服[「名流譚叢」]『神風』330、5月11日
政党政治と青年の自覚『寸鉄』3-6、6月1日
婦人の力で国民の品位を高めよ『婦人画報』185、6月1日

節制簡易を第一[「余の実験せる健康法」]『太陽』27-8、6月15日
国土と人民『外交時報』34-1[400]、7月1日
我が立憲政体の特色『国家学会雑誌』35-7、7月1日
[「家庭に於ける子供の性教育問題」]『主婦之友』5-7、7月1日
国家問題より思想問題に及ぶ[3月5日講演於通信官吏練習所]『通信協会雑誌』157、158、7月1日、8月1日
新ドイツ共和国憲法に就いて(法理研究会講演)[雑録]『法学協会雑誌』39-7、7月1日
最後の覚悟[「名流譚叢」]『神風』336、7月11日
最後の覚悟を以て軍備會議に臨め『東京日日新聞』7月16～18日
非軍備制限論『国民新聞』7月21日
太平洋會議と軍備問題『財政經濟時報』8-8、8月1日[『日の本』収録]
軍備制限論を排す『朝鮮公論』9-9、9月1日
世界の歴史と日本[講演]『皇国』275、276、10月1日、11月1日
国家の創造『国学院雑誌』27-11、11月15日
摂政の解釈[談]『大阪朝日新聞』11月23日
国難来『国民新聞』12月8、9日
*日本は青年の力に俟つ『忠孝之日本』1-10、12月
*根柢ある日米親善『オリエンタル・レビュー邦字版』1、刊行月日未詳<東京大学法学部明治文庫所蔵：Z30:0712>

1922(大正11)年

[「軍備縮小が実行されたら剰余金を何に使用すべきか」]『実業之世界』19-1、1月1日
是れ国難に非ずして何ぞ[「米国海軍制限案の不正義を駁す」]『中外新論』6-1、1月1日
国家の哲理的及歴史的の意義[1921年12月24日講演(於兵庫県教育会第17大会)]『兵庫教育』387、1月1日
*国難来と国民の覚悟『日本魂』7-1、1月
山県公の二つの偉業—自治制と国民皆兵と—[談]『読売新聞』2月3日
私の観たる山県公『戦友』141、3月1日
現代文明の帰趨『清明心』2、4月1日
*降り坂の日本—軍人諸君に苦言を呈す『大正公論』2-4、4月1日
機能麻痺の政治機関『太陽』28-7、6月1日[『日の本』収録]
政党の無能力と将来の政局『現代』3-7、7月1日
行政科試験に際して『法学界』1-10、10月1日

〔「現代名士より学生諸君へ(一)向上雄飛を志す学生諸君への希望と注意(二)人物採用の標準」〕『受験と学生』5-11、11月1日

尊くも強き母の力『婦人倶楽部』3-11、11月1日

1923(大正 12)年

哲学流行と教育者『教育研究』251、1月1日

社会学の動機『国家学会雑誌』37-1、1月1日〔『日の本』収録〕

軍国主義者の立場より 浅薄にして根柢なき平和政策を論ず『東亜公論』7-1、1月1日

〔「当来の教育問題」〕『教育時論』1358、1月5日

最早や国民の問題(枢密院上奏問題)『国民新聞』2月9日

*現内閣の臣節を疑ふ『世界公論』臨時増刊、2月

唯だ国体の精華を發揚するのみ〔「新興愛国団体批判」〕『改造』5-3、3月1日

*確信と覚悟『民勞』〔3-3〕、3月

最も平凡なる女を〔「私の望む理想の結婚」〕『主婦之友』7-4、4月1日

〔「名士の愛読書」〕『青年』8-4、4月1日

有色議會〔「排日と名士」談〕『紐育新報』1031、4月23日

世態調査の必要(民心は不満不安の極)『憲政』6-5、5月10日

民勞会と学盟の握手ではない—と〔記事「民勞会の学校で経綸学盟幹部、講義」中の談〕『国民新聞[夕刊]』6月14日

識者猛省の秋 国家の危機を眼前に眞の自覚奮起を促す『国論』9-12、6月15日

経綸学盟の精神〔談〕『努力』8-7、7月1日

須く神武創業の始に原くへし『日本主義』1、7月20日〔『日の本』収録〕

〔「研究室臨檢事件に就ての感想」〕『日本教育』2-8、8月1日

〔「日本髪と洋髪(束髪)はどちらが好いでせう」〕『婦人倶楽部』4-8、8月1日

机辺小話『芸術』1-20、8月5日

天下無敵〔卷頭言〕『日本主義』2、8月15日〔国立国会図書館憲政資料室所蔵『齊藤実関係文書』書類の部 1〕〔『日の本』収録〕

国民性の發露『教育研究』263、10月15日

戒嚴に就て『法学協會雑誌』41-10、11月1日

日本の社会主義と甘粕大尉『婦女界』28-5、11月10日

違憲の戒嚴『万朝報』11月14日

閣臣自ら恐懼せよ『国民新聞[夕刊]』11月17日

1924(大正 13)年

理想の国家[談]『神風』418、1月1日

拝詔所感『教育研究』267、1月1日

行政科試験に関して[「主張と講評」]『受験界』5-1、1月1日

日本人の日本を[「私の新年言志」]『主婦の友』8-1、1月1日

二院制度を誤る[談]『東京朝日新聞』1月19日

無意義な議会解散 政府自身に対する威嚇[談]『大阪毎日新聞』2月1～3日

馬鹿を見るは国民『東京日日新聞』2月2～4日[『新聞集成大正編年史 大正十三年度版 上ノ上』(明治大正昭和新聞研究会、1986年)抄録]

国民精神作興の要訣『東京日日新聞』3月31日

*新シキ敬神尊王愛国ト宗教的生命『神聖日本』3月

儒教の国家説[「思潮」]『弘道』383、4月20日

有色人種に檄して東京に大会議を開け『法律新聞』2248、4月30日

我が立憲政治の特色[講演筆記]『国学院雑誌』30-5、5月1日

総選挙の所感と政局『憲政』7-6、6月10日

普選即行と貴族院の改革 新内閣の採るべき途『東京日日新聞』6月17日(『大阪毎日新聞』6月27日)[『新聞集成大正編年史 大正十三年度版 上ノ下』(明治大正昭和新聞研究会、1986年)収録]

普選と貴族院改革—新聞の責任—『国民新聞』7月8、9日

*貴族院改革は直ぐ出来る『報知新聞』7月

[10月19日付書信]『隨筆』2-10、11月1日

*最後の線上に護国の真精神を施け『民勞』[3-11]、11月

*国家原理『安田同人会』11月

貴族院改革の一提案『憲政公論』4-12、12月1日

貴族院改革と政党の態度[「卓に倚りて」]『東京日日新聞[夕刊]』12月23日

*精神作興の要訣『神聖日本』12月

Die Verfassungsrecht in Japan in den Jahren 1912-1922, *Jahrbuch des öffentlichen Rechts der Gegenwart*, 12 Bd.

1925(大正 14)年

普通選挙の準備如何『教育研究』282、1月1日

国民精神の作興『現代』6-1、1月1日

対米問題と国民の覚悟『国民精神』12-1、1月1日

貴族院改革ノ限度『国家学会雑誌』39-1、1月1日

- *迫り来る人種戦『新発田新聞』1月3日
- *国家は最高の道徳なり『日本魂』[10-1]、1月
- *新たな政権争奪の好餌、貴族院の改革『民労』[5-1]、1月[『日の本』収録]
- 机辺閑話『急進』[19]、2月1日[『日の本』収録]
- 国民の精神的統一『斯民』20-2、2月1日
- 帝国憲政の過去及現状と普通選挙に対する準備『太陽』31-3、3月1日[『政治上の国民総動』、
「帝国憲政の過去及現状」と改題『日本之運命』収録]
- 華族諸侯に告ぐ『大東文化』2-3、3月1日
- 国民精神作興大詔を拝して 国家興隆の基礎『国民精神』12-4、4月1日
- 普通選挙の準備『皇国』317、5月15日[『普通選挙準備会を設立せよ』1925年1月の抜粋]
- 高島素之君著『社会問題辞典』を見て『国民新聞』7月13日
- 普通選挙の大精神を国民に徹底せよ『教育研究』292、8月1日
- 普通選挙の精神[講演(於三郡連合校長会)]『神奈川県教育』223、9月25日
- [「日本青年館に希望する事ども」]『青年』10-10、10月1日
- *恐懼憤慨『日本新聞』10月
- 国家の本質と我が国体『宮城教育』316、318、10月1日、12月1日
- *全国軍人諸君に告ぐ『青年日本』1-4、月日未詳

1926(大正 15・昭和元)年

- 政府政党の出处進退『国民新聞』1月18、19、21、23日
- 何を書くとはなしに[『第3次』局外]2-2、2月1日[『日の本』収録]
- 意志教育の欠陥[「現代の娘の長所と欠陥」]『主婦之友』10-2、2月1日
- 貴院改革論者の降伏を意味する 予算審査期の設定[談]『読売新聞』2月8日[『新聞集成大正
編年史 大正十五年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1985年)収録]
- 普選大成は一大難事業『大成会々報』1、2月11日
- 政治上の国民総動員[「教育上如何に選挙権の行使を指導すべきか」]『教育論叢』15-3、3月1
日
- 建国の意義『建国新聞』1、3月1日
- 国体論通釈『建国新聞』1~8、12、13、15、17、19、20、3月1、15日、4月1、15日、5月1、15日、
6月1、15日、11月15日、12月1日、**1927年**1月1日、6月15日、7月15日、8月1
日
- 起てよ!無産者『建国新聞』2、3月15日
- 所懐を陳して挙国の青年に告ぐ『建国新聞』3、4月1日
- 今期議会に於ける二三の憲法問題『国家学会雑誌』40-4、4月1日

国家と人生『大成会々報』3、4、4月11日、5月11日[『政治上の国民総動員』『日本之運命』収録、『精神動員の根柢』(日本学術普及会、1937年)と題して刊]

普選の実施と国民の共同一致並に普通選挙の五大精神[談]『鹿児島朝日新聞』4月13日

国家は最高の道徳『鹿児島朝日新聞』4月14日

上杉博士講演『鹿児島朝日新聞』4月15～18日【1日本は今未曾有の難局に立つ 帝国の威信地に落つ、2日本が贏ち得た三大国の悲哀 弱小国の艱難は当然、3物質文明の余毒を深刻に受けたるものは日本である、4国家の難局を救ふは純真なる信仰と国民の一致協力に在る】

所懐を陳して挙国の青年に告ぐ『青年日本』2-5、5月1日[『日の本』収録]

*愛国心の勝利『日本新聞』5月15日

*国民は茫然『日本新聞』5月20日

政府安定の意義及び方策『読売新聞』5月21日

*政治家の気魄『日本新聞』5月25日

社会科学の自由について[談]『明治大学駿台新報』126、5月29日

*政党の一転機『日本新聞』6月25日

庭前の景情『随筆』1-2、7月1日[『日の本』収録]

仮寝書屋随筆『文芸春秋』4-7、7月1日[『日の本』収録]

相互教育『経済往来』1-5、7月1日[『日の本』収録]

民族の運命[5月19日講演於東京高等商船学校]『商船学校校友会誌』318、7月1日

貴族院改革に対する最も適切なる提案『青年日本』2-7、7月1日

国際貸借改善の国民的総動員を起せ!『財界レビュー』4-8、8月1日

貧乏愛國論『自治公論』3-5、8月1日

普選と信念『道の友』36-15、8月5日

*会長就任の辞『建国新聞』[7]、9月1日

普通選挙の精神[7月15日講演於熊本市公会堂]『熊本教育』199、9月11日

現内閣は速かに総辞職せよ 之れ朴烈問題解決の唯一方策[談]『読売新聞』9月20日[『新聞集成大正編年史 大正十五年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)収録]

*驚くべき減刑奏請の理由『日本新聞』9月

「あなたは映画を御覧になりますか?」『映画時代』1-4、10月1日

貧しき妻の愛國的美挙[「現代婦人鑑 私の心を打った信仰・修養・報恩美談」]『婦女界』34-4、10月1日

我が建国の淵源『歴史地理』48-4、10月1日[日本歴史地理学会編『国史の懐古』(日本学術普及会、1934年)収録]

普選即行の政治的準備 現内閣の退任を望む『読売新聞』10月6～8日[『新聞集成大正編年史 大正十五年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)抄録]

普選の意義及効果『大成会会報』8、11月11日

*議会開会前に解散し普選を断行すべし『日本新聞』11月1日

労働建国『建国新聞』12、11月15日

*大臣進退の基礎『中外毎日新聞』11月25日

建国の意義『建国新聞』13、12月1日

残れる日本人『建国新聞』13、12月1日

*億兆一心の普通選挙『中外毎日新聞』12月1日

建国運動とは何ぞ『建国新聞』14、12月15日

予の立脚地『建国新聞』14、12月15日

普通選挙の精神『米沢有為会雑誌』358、359、12月26日、**1927年**1月26日

1927(昭和2)年

蹶起せよ愛国の士『キング』3-1、1月1日[『日の本』収録]

[無題の短文]『建国新聞』15、1月1日

国家の価値『国家学会雑誌』41-1、1月1日[『日の本』収録]

[「私の現在に於ける 一最大の慾望 二最大の満足 三最大の不満 四最大の好物 五最大の嫌な物」]『事業之日本』6-1、1月1日

解散は不当『東京日日新聞』1月8日

解散は不当なりとする理由概要[談]『万朝報』1月13日

国家の価値『建国新聞』16、1月15日

三党首の申合『読売新聞』1月27、28日[(上)を『新聞集成昭和編年史 昭和二年度版 I』(明治大正昭和新聞研究会、1984年)収録]

墮落せる我国の政党政治[「普選に直面して全国民の奮起を促す」]『現代』8-2、2月1日

愛国心を衰へしめる学校教育[「新時代の愛国心は斯くあるべし」]『実業之世界』24-22、2月1日

親交を得ることが出来なかつたら[「高島素之氏の印象」]『隨筆』2-2、2月1日

解散の道德『法学協会雑誌』45-2、2月1日[『日の本』収録]

皇族の外国御遊学—蘇峰子に感謝す—[「寄書」]『国民新聞』2月24日

愛国青年の奮起を促す『雄弁』18-3、3月1日

反対模倣『文芸春秋』5-5、5月1日

若槻内閣は自殺的倒壊[「違憲問題厳正批判」]『国本』7-6、6月1日

[「日曜と郵便」]『中央公論』42-7、7月1日

最近の憲法問題『法学協会雑誌』45-7、7月1日

〔「愚問賢答 1 涼趣三題 2 全集物と私」〕『春秋』1-6、9月1日

地方自治の冒瀆を慎め『東京日日新聞』9月5日

*新聞と民族の運命『日本新聞』9月30日、10月1日

日本思想界への一大貢献〔卷末収録「『マルクス資本論』の予約募集」の「邦訳資本論批評一斑」のうち〕『改造』9-10、10月1日

当世七不思議『随筆』2-10、10月1日〔『日の本』収録〕

箕距漫筆『文芸春秋』5-10、10月1日〔『日の本』収録〕

試験難と民族の運命『改造』9-11、11月1日

民衆礼儀〔社会経済随想〕『経済往来』2-11、11月1日〔『日の本』収録〕

貴族院改革案『報知新聞』12月4、5、7日

クリスマス〔鉄箒〕『東京朝日新聞』12月18日

1928(昭和3)年

全国小学校教員の名に於て一大警告を宣言すべし〔「我国今後の教育」〕『教育研究』322、1月1日

建国以来の道を往く〔「日本は何処へ往く」〕『経済往来』3-1、1月1日〔「日本は何処へ往く」と題して『日の本』収録〕

政治の新原理『愛国』2-2、2月1日

普通選挙と愛国心〔談〕『斯民』23-2、2月1日

道徳と正義の敵ムツソリニ論『中央公論』43-2、2月1日〔『日の本』収録〕

誰が国家を担当する『キング』4-3、3月1日〔『日の本』収録〕

多数代表を妨ぐる諸事情『国家学会雑誌』42-3、3月1日

〔「愚問賢答 昭和戊辰への希求」〕『春秋』2-3、3月1日

*選挙の理想と其の実現の困難なる事情『安田同人会』4月

不磨の大典『東方公論』3-5、5月1日

石が笑う『文芸春秋』6-5、5月1日

内閣改造奏請問題『報知新聞』5月26日

憲政の基礎動揺す『大阪朝日新聞』5月28日〔『新聞集成昭和編年史 昭和三年度版 II』(明治大正昭和新聞研究会、1988年)収録〕(『東京朝日新聞』5月29日)

暴政と国民との対戦『東京朝日新聞』6月5日

信念なき政治 治安維持法改正の非理〔談〕『やまと新聞』6月22日

憂ふべき緊急勅令『東京朝日新聞』6月23、24日〔『日の本』収録〕

先づ枢府の改革を叫ばむ〔談〕『時事新報』6月29日

*日本新聞同人に寄す『日本新聞』6月29日〔『日の本』収録〕

田中首相辞職の意義[「なかなか辞職せぬ田中内閣」]『改造』10-7、7月1日

優待問題の取扱方『経済往来』3-7、7月1日

憲政の基礎[「政界評論」]『実業時論』2-7、7月1日

[「匿名批判 新聞批判」]『文芸春秋』6-7、7月1日<執筆箇所は特定できない>

憂ふべき緊急勅令『民政』2-7、7月1日

国家目的論の意義[「日本精神の研究」]『教育研究』331、8月1日

汽車の食堂『旅』5-8、8月1日

恐怖時代の製造(誤れる治安維持令)『中央公論』43-8、8月1日[『日の本』収録]

[「御大典記念として講談社が書籍報国の快挙「大日本史」に寄す諸名家の言葉」]『読売新聞』9月16日

1929(昭和4)年

普通選挙と其実際『愛国』3-2、2月10日

*多数主義と衆議院の本質『愛国』3-3、3月10日

議会の実情と其解散『愛国』3-4、4月10日

大臣の責任及政府と議会(遺構)『愛国』3-8、8月10日

1942(昭和17)年

日米衝突の必至と国民の覚悟『維新公論』6-10、11、7-1、11月25日、12月15日、1943年1月15日